

Uyemura, T.- On a Japanese harvester, *Epedanellus laevis*.

コヤムシの分布と圖説

植 村 利 夫

東京市瀧野川區西ヶ原町三一〇

〔昭和十一年六月五日受領〕

昭和九年十月予は和歌山縣那賀郡東野上町の八幡神社境内で採集した二頭のザトウムシを、最近になつて岸田久吉氏に査定を願つた所、意外なる珍品コヤムシ *Epedanellus laevis* と稱する種の♀♂なる事が判明したので、此所に簡単に既知の産地を述べ、併て圖説を紹介する事にする。

抑々本種を初めて記載した人は世界のザトウムシを書いて有名な Roewer 氏で、時は1911年である。其の基本標本は日本産のものであるが、何れの地よりの産なるかは不明に屬する。而るに其後小山氏と云ふ人岸田氏の御郷里である京都府高野村より本種を採集し、明らかなる産地が一つ知られた事を記念するために、岸田氏は小山氏の姓をとりて本種にコヤムシと命ぜられたと云ふ。而して其の後久しき間他の何れの地方よりも採集されなかつたとの事である。故に上記予の採集地は本種の明らかなる産地として第二にあぐべき所である。以下本種の解説に移る。

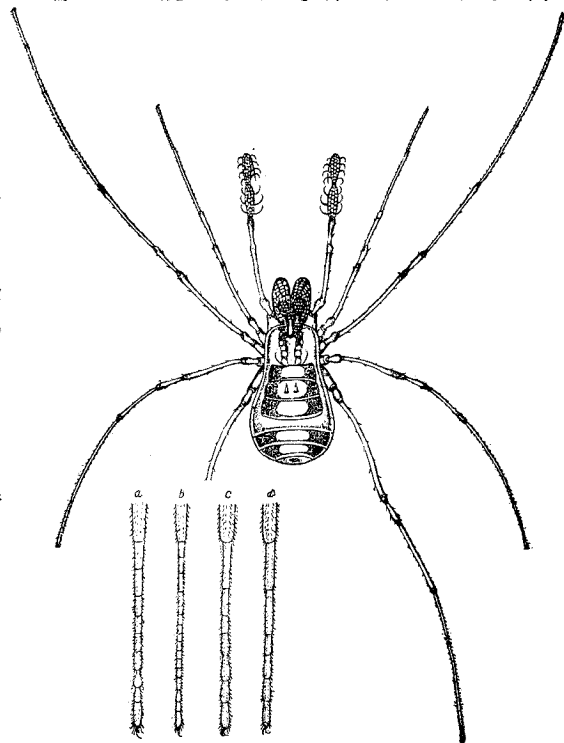
(測定) 體長 4.5mm. 頭胸部の幅 2mm. 腹部の幅 3mm. 歩脚は長さ第一 9mm. 第二 13mm. 第三 11mm. 第四 14mm. に達する。觸鬚は長さ體長に近く 4mm. を超ゆる。

(觀察) 頭胸部の形は矩形に近く、前三分の一の所に横に橢圓形の眼丘を有

する。其の兩側の基部に眼があつて、中央に一本の直き棘を具へて居る。其の棘の長さは 1mm. に達する。楕甲は四節の合一によりて成り 長さは大なれども割合に四角形に近く、第二節の亞中線上に稍大なる一對の棘を有する。腹部後方の節は自在である。上顎は雄大、特に♂は格別に大きい。此の圖説の材料は♂の標本を用ひた事を此所でお斷りして置く。觸肢はよく發達し、腿節及膝節は武装して居ないが、脛跗二節は膨大し、脛節には三對の棘、跗節には四對の棘があり、又後者の先端には長き鋭き爪がある。棘及爪は夫々内方へ曲つて居る。

歩脚は棘無く纖細にして、第四脚の腿節は強く S 字狀に曲つて居る。第一、第二脚の跗節の端部は三小節よりなり、先端に一個の爪を有する。第三及第四歩脚の跗節には齒無き爪が二本ある。

(色彩) 全體褐黃色にして、楕甲及自在節の兩端部に縦の太き黒褐色部がある事と眼丘の周圍は同様な色を呈して居る他に特に記すべき斑紋が無い。上顎及觸



コヤマムシ *Epdanellus laevis*. ♂

- a. 第一歩脚の跗節 b. 第二歩脚の同
c. 第三歩脚の同 d. 第四歩脚の同

肢の膨大部等を顕微鏡下に覗くと、實に綺麗な縞模様である。

(習性) 樹林の下等の稍濕氣ある所に棲んで居る。

(備考) 本屬は日本特有にして二種ある。他種を *E. tuberculatus* Roewer 1911と呼ぶ。此の方は岡山と臺灣に産する事が明らかにされて居る。楯板の一、二、三節に各一列の小突起を有する點がコヤママシと異つて居る。第二節に二本の稍大なる突起のある事は兩者同様である。恐らく此の二種は今日まで割合に人々が採集しなかつたまでで、今後注意すれば、各地に産する事が明らかになる事と思はれる。而して此の兩者に酷似した種類は極めて多く、アマミムシ、タカヲムシ、タンゴムシ、キイルムシ、オキナハムシ等々、素人には一寸區判の難しいものであるから、それらしき種類を採集しても、決して此の種だと早決める事なく、必ず専門家の査定を仰ぐべき必要のある事を御注意申上て置く。

(昭和十一年六月五日稿)

Sakaguchi, S.-One method of collecting spiders.

蜘蛛狩と草刈

坂口 總一郎

和歌山縣海草郡岡崎村 (昭和十一年六月二十日受領)

コガネグモやデョラウグモの様な大きな造網性の蜘蛛は兎に角として、所謂ハンターと呼ぶ仲間には、芝生や雜草の中に棲んで居て極めて小形なものが多く、而も中々に走る事が速い。故に如何なる蜘蛛狩の名人と云へども屢々貴重な珍品を見付けでは取り逃す場合が多いものである。

それで小生はずつと以前から、これらの小形なハンターの採集法として、生徒に草刈を奨め、自分も之を實行して居るが、非常に興味の深いものである。故湯原清次氏や植村利夫君等も此の方法に依つて多數の珍品を見付けられた様である。草刈に依る方法とは、先づこれからが最好の時季であるが、鎌を持つて野外に出かけ、適當な場所を見出して、一坪位の面積を外から内へ向つて周圍から